

CPAモードの試行運用期間の終了について

令和7年12月2日

広島県健康福祉局健康危機管理課

(1) 要旨

第1期実証実験（R5.10～R7.9）において、**令和6年11月から試行運用を開始したCPAモード※1（Sign of Life機能）※2について、令和7年12月をもってSign of Life機能の運用を終了する。**

救急隊がSign of Life機能を用いて入力した本県の搬送データは、「院外心停止におけるSign of Lifeと転帰の関係について」研究※3を行う札幌医科大学に提供することとしており（本県を含む複数の自治体がデータ提供）、当該研究における本県の対象症例が、令和7年12月末までに発生した症例であるため。

※1 TXP Medical株式会社が提供する民間救急システム（NSER mobile）における心停止（CPA）症例に特化した入力モード。

※2 CPAにおける予後良好の指標であるSign of Life（瞳孔、体動、呼吸など）の情報を簡易的に入力できるようにした機能。

※3 研究目的（札幌医科大学 研究計画書より抜粋）

- ・心停止蘇生中に認めるSign of Lifeの疫学（頻度、種類、出現タイミング）、および予後との関連について明らかにすること。
- ・また、Sign of Lifeを認めるタイミング（救急隊活動中か病院到着後か）で、予後に差があるかについて明らかにすること。

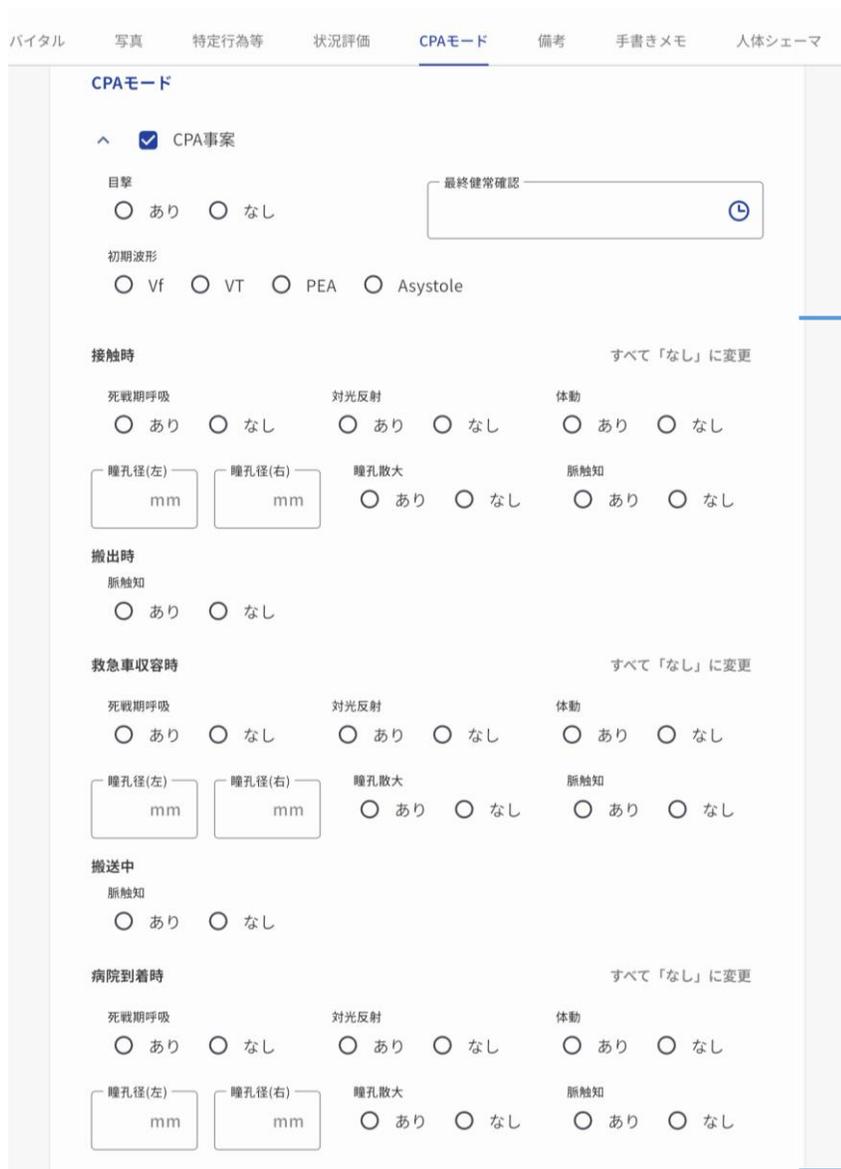
(2) 今後の方針

CPAモードの試行運用期間の終了（Sign of Life機能の終了）について、第2期実証実験（R7.10～R10.9予定）に参加する消防本部及び医療機関に対して、県から別途通知する。

なお、**CPAモードにおけるSign of Life以外の項目（目撃有無、最終健常日時、初期波形）の必要可否については、今後、消防・医療関係者と協議の上で整理する**（救急隊の入力画面・項目については3頁を参照）。

また、CPAモードの利用実績については、前回の本会議（令和7年8月29日開催）で報告したところだが、最終的な利用実績は、今年度末に改めて報告を行う。

第2期実証実験 (R7.10~R10.9予定) においては、CPA事案であるかどうかのみ、医療機関側に表示される仕組みとなっている。



バイタル 写真 特定行為等 状況評価 CPAモード 備考 手書きメモ 人体シエマ

CPAモード

CPA事案

目撃 あり なし 最終健常確認

初期波形 Vf VT PEA Asystole

接触時 すべて「なし」に変更

死戦期呼吸 あり なし 対光反射 あり なし 体動 あり なし

瞳孔径(左) mm 瞳孔径(右) mm 瞳孔散大 あり なし 脈触知 あり なし

搬出時

脈触知 あり なし

救急車収容時 すべて「なし」に変更

死戦期呼吸 あり なし 対光反射 あり なし 体動 あり なし

瞳孔径(左) mm 瞳孔径(右) mm 瞳孔散大 あり なし 脈触知 あり なし

搬送中

脈触知 あり なし

病院到着時 すべて「なし」に変更

死戦期呼吸 あり なし 対光反射 あり なし 体動 あり なし

瞳孔径(左) mm 瞳孔径(右) mm 瞳孔散大 あり なし 脈触知 あり なし

CPA事案 (フラグ)

目撃有無
最終健常日時
初期波形

目撃有無・最終健常日時・初期波形の必要可否については、今後、消防・医療関係者と協議の上で整理する。

Sign of Life情報

【接触時/救急車収容時/病院到着時】

- ・死戦期呼吸
- ・対光反射
- ・体動
- ・瞳孔径
- ・瞳孔散大
- ・脈触知

【搬出時/搬送中】

- ・脈触知